

陽春白雪（残元本）文字整理方針

残元本『樂府新編陽春白雪』の再現テキストを作成した。再現テキストとは、原本のレイアウト情報を備えた翻字テキストのことである。匡郭等の図形や元の縮尺にはこだわらず、本文、校語、蔵書印などの文字情報を中心にして直感的にイメージしやすいように作ってある。将来、この本の影印本が出版されるときまでの代用をつとめることを目的にしている。

底本には南京図書館所蔵のマイクロフィルム（請求記号 KB5002。原本の請求記号は 111969）を用いた。『陽春白雪』には元代の刊本が2種伝わり、残元本はそのひとつである。もうひとつの刊本は「元刊本」と呼ばれ、すでに中華再造善本、続修四庫全書に影印されている。

再現テキスト作成に当たり、次のような方針で文字を整理した。

（1～5 再現テキストすべてに共通）

1. 判読できなかった字は□，原本の墨丁は■，もともと書かれていた四角形は□を用いる。
2. 俗字は正字に改める。敦煌文献，戯曲・小説等の校勘作業では常に俗字処理の問題がつきまとい，代表的な考え方には，王重民『敦煌變文集』（人民文学出版社，1957）のように俗字の字形を残す方法と，黄征・張涌泉『敦煌變文校注』（中華書局，1997）のように正字に改める方法，そして鄭騫『校訂元刊雜劇三十種』（世界書局，1962）のように無理に植字・校勘せず記号（×）で代用する方法の3種類があるだろう。元代散曲テキストにおいても草かんむりと竹かんむりが混用されて「𠂔」のような形で書かれるなど，俗字は多様で活字での表現が困難なため，正字に改める方法を採用した。字形だけではどの字か特定できない場合もあり，そのときは排印本等の資料を参考にしながら文意に応じて改めている。例外的に俗字を残した場合は，以下の6，7に記載してある。俗字の範疇については張涌泉『漢語俗字研究』増訂本（商務印書館，2010）を参考にした。
3. 字形がくずれて字をなしていないときは，俗字の場合と同様，排印本等の資料を参考にしながら文意に応じて改める。
4. 字形が明らかで字をなしているものは原則そのままにする。例えば明らかな誤字，音の近い当て字であっても変更していない。
5. 次に示す字形はカッコの左側を標準形とする。カッコ内は多くが日本で旧字体と認識されている字形だが，常用漢字とそれ以外（表外漢字）で一貫性を欠き，一つの字形に統一できないので採用しなかった。標準形の選択においては，コンピューターの文字コードと，再現テキスト作成に使用したフォントとを精査することで，文字体系全体のなかで字形の一貫性を確保した。

奥(奥)	并(并)	並(並並)	查(查)	处(処)	兑(兌)	骨(骨)	龜(龜)	袞(袞)
戶(戸)	黄(黃)	即(卽卽)	既(既既)	兼(兼)	教(教)	晋(晉)	聚(聚)	絶(絶)
賴(賴)	另(另)	呂(呂)	免(免)	内(内)	普(普普)	青(青)	弱(弱)	覃(覃)
衛(衛)	卧(臥)	虚(虛)	要(要)	益(益)	俞(俞)	羽(羽)	蚤(蚤)	者(者)
真(眞)	直(直)	衆(眾)	朮(朮)	兹(茲)				
之(之)	开(開)	爻(爻)	示(示)	友(友)	产(産)	林(林)	臣(臣)	禹(禹)
食(食)	盥(盥)	虽(雖)						

(6~10 この再現テキストに固有の整理状況)

6. 次の文字は同義で音の近い通用関係にあり、この再現テキストでは統一せずそのままの字を残した。整理の範囲は本文など当初からあった部分とし、後人が付加した序跋・校語等は含めていない。

庵菴	盃杯	氷冰	彩綵采	船舩	窓窓窓窗	挫剉	堤隄	雕鷗彫	
疊疊	閨閨	阜阜	歌哥	閣閣	挂掛	後后	歡懽	簧篁	回廻
魂魂	雞鷄	牋箋	逕徑	淨淨	泪淚	梨梨	里裏	涼涼	滅滅
模模	幙幕	撚捻	裊孌	煖暖	憑凭	栖棲	墻牆	群羣	遶繞
蕊蕊	颯颯	升昇	疎疏	它他	嘆歎	汙汚	無亡	誤悞	繫系
筩簫	効效	胷胸	薰熏	烟煙	鴈雁	鑿醫	遊游	輿輦	願愿
韻勻	咱喲	庄莊							

7. 次の文字の多くは他の散曲テキストでは通用関係にある字が存在するが、この本では1種類の字だけ使われている。他の散曲テキストとの比較ができるよう、ここに列挙しておく。整理の範囲は6と同様、当初からあった部分に限定している。

捱	碍	翱	熬	霸	灞	遍	鬢	並	採	冷	草	茶	沉	撐	喫	痲	翅	冲	酬
雛	床	匆	葱	聰	答	眈	弟	鼎	妬	塚	馱	峩	鵝	萼	翻	豐	峯	槩	赶
幹	缸	耕	鈎	鼓	怪	管	館	歸	鶴	鴻	壘	羈	迹	髻	減	剪	健	鑑	堦
節	潔	肯	欸	况	媿	闊	臘	蠟	懶	纍	藜	瓊	怜	奩	糧	洌	隣	凌	略
猫	麼	梅	縻	命	脈	寞	那	妳	你	旒	您	寧	佩	旃	拚	屏	瓶	婆	撲
鋪	淒	碁	寢	藥	秋	覷	缺	裙	染	洒	腮	煞	噉	甚	勢	梳	拴	絲	愔
蘇	簌	算	笋	簑	鎖	擡	壇	桃	條	汀	同	拖	陀	翫	幃	戲	詭	絃	閑
嚙	賢	羨	蕭	笑	蟹	脩	綉	婿	胭	岩	燕	艷	野	旖	映	詠	餘	寃	緣
雲	折	浙	着	卮	鍾	准	姿	蹤	摠	觜									

8. 次の右側の文字は字形を変更して左側のように統一した。

燈←灯 個←一个 棄←弃 稻←稻 掐←插 閻←閻 焰←焔
鴛鴦←鴛央

9. 文字の修飾（色など）

黒色： この本の成立当初の字，後人の序跋の字

白抜き： 陰刻

緑色： 補写の字。黄丕烈跋によると補写は黄丕烈のもの

二重取り消し線： 修正で塗りつぶされた字

赤色： 蔵書印，校語の字

10. その他

- 最初のページにある丁丙の解題は1行の字数が多いため、やむなく行格を変更した。原本の1行の字数は40~58字である。
- 「陽春白雪選中古今姓氏」と巻一第一葉にある蔵書印「南京圖書館藏」は再現テキストでは一見同じに見えるが、原本ではそれぞれ字様が異なり別の印である。

(改版履歴)

01 2015. 3. 23

02 2015. 11. 15

再現テキスト 修正箇所は、順に巻-葉、表裏と行、修正前、修正後を表わす。

1-3	b17	千	千
1-4	b12	片 _一	片二
1-5	a8	夭	天
1-7	a3	劔	劔 (金の上に僉を重ね書き)
1-7	b8	染	染
1-7	b15	潔	潔
		金	今
1-9	b1	也	他
1-10	a14	地	池
1-11	b1	西	兩
1-12	b15	旆	旆
2-1	a6	沙	紗
2-3	b5	路	絡
2-3	b7	雨	霎
2-3	b17	仁	人
2-4	b7	囂	嘗
2-5	a13	効	效
2-5	b16	佳	住
2-6	a1	鴛	□
2-6	a2	惚	摠
2-6	b3	賒	賒
2-6	b17	金	□
2-7	a1	題	□
2-8	a1	翠	□
2-9	b2	涼	涼
2-10	b16	千	千
2-11	b3	瓜	爪
2-12	a7	磯	□
2-12	b4	沈	沉
全体		版心を修正	
全体		一部の陰刻に墨囲を追加	
全体		緑色の範囲を修正	

文字整理方針

6に追加 采 模模 裊嬢 効效 薰熏

7に追加 採 眈 弟 鵝 缸 洌 旆 染 茶 拖 陀 幃 笑 燕 鍾

7から削除 堆 効

03 2016. 3. 31

再現テキスト 修正箇所は、順に巻-葉、表裏と行、修正前、修正後を表わす。

1-1 a11 疊 疊

1-6 b5 羨 羨

2-7 b6 羨 羨

文字整理方針

6 に追加 挫剝 疊疊

6 から削除 丰豊 跡迹 雲云

7 に追加 捱 碍 翱 灞 荼 沉 撐 翅 床 匆 答 鼎 豐 鶴 鴻 迹 剪
健 節 潔 肯 媿 懶 麼 脈 寔 那 旒 婆 撲 鋪 榮 裙 勢
梳 拴 蘇 簌 算 鎖 壇 賢 羨 旖 映 詠 緣 雲 折 浙 姿

7 から削除 鞭 回 驅 荼 卓